

さし芽によるシュツコンカスミソウの秋切り作型

水 越 洋 三・畠 山 順 三

(秋田県農業試験場)

Type of Cultivation for Autumn Crop on *Gypsophila paniculata* L. by Cutting

Yozō MIZUKOSHI and Junzō HATAKEYAMA

(Akita Agricultural Experiment Station)

1 はじめに

シュツコンカスミソウの生産は、昭和50年代に入ってメリクロン苗生産技術が実用化されたのを契機に急激な伸びを示し、全国的にみて、ほぼ周年生産が行なわれるようになった。しかし、8月、9月、10月の生産は概して少ない状況にあり、これらの時期の生産については夏季冷涼な寒・高冷地が有利であるといわれている。

このようなことから昭和58・59年に、さし芽時期による生育、開花生態について検討し、秋切りの適応作型を明らかにしたいので、その結果を報告する。

2 試験方法

両年とも品種「プリストルフェアリー」を供試し、昭和58年には表1のように2月から7月まで1か月おきにさし

表1 試験区一覧(昭58)

項目 区名	さし芽 (月・日)	砂上げ 仮植 (月・日)	摘心 (月・日)	定植 (月・日)	採穂親
2月ざし	2.21	3.24	4.6	4.22	} 経年株
3月ざし	3.14	4.14	4.25	5.23	
4月ざし	4.20	5.23	6.1	6.20	
5月ざし	5.18	6.22	7.2	7.22	
6月ざし	6.20	7.22	8.3	9.6	} 当年株 (2月ざし)
7月ざし	7.21	8.23	9.3	9.20	
据置き株 (参考)	55.8.8	55.9.10	55.9.22	55.10.2	

芽を行ない、プランターに定植し、ガラス室内(4月20日までと11月20日以降は最低気温12℃に加温)で管理した。供試株数1区8株、1株仕立本数は1・2番花とも3本(据え置き株は1番花6本、2番花4本)とした。

昭和59年には前年の結果にもとずき、表2のように5月

表2 試験区一覧(昭59)

さし芽	砂上げ 仮植	摘心	定植	定植後の管理
5月9日	6月11日	6月18日	7月4日	①ガラス室内
5月18日	6月19日	6月26日	7月12日	
5月31日	7月2日	7月11日	7月26日	②戸外覆下
6月9日	7月10日	7月17日	7月31日	

上旬から6月上旬まで4回のさし芽を行ない、6号駄温鉢1株植えとし、定植後はガラス室内と戸外覆下に分けて管理した、供試株数1区10株、1株4本仕立てとした。

3 結果及び考察

昭和58年の結果について、1番花の採花時期は、2月ざ

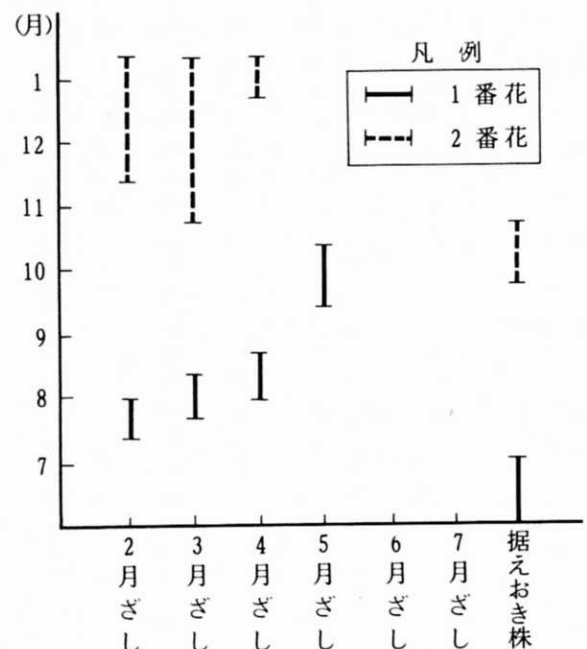


図1 さし芽時期と採花時期

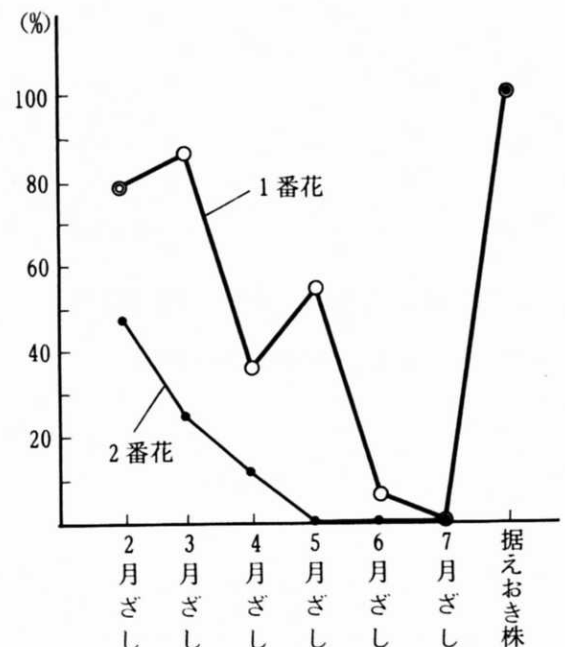


図2 さし芽時期と採花率

しが7月中, 下旬, 3月ざしが7月下旬~8月上旬, 4月ざしが8月上, 中旬と順にややおくれたが, 5月ざしは9月中旬~10月上旬で, おくれの程度がやや大きかった。採花茎率は, 2月ざし及び3月ざしか80~90%, 4月ざし及び5月ざしが40~50%で, さし芽時期のおくれるほど低下し, 6月ざしでは大部分, 7月ざしでは全くロゼット化して採花はできなかった。

2番花の採花茎率は, 2月ざしが約50%で, さし芽時期のおくれるほど, やや急激に低下し, 5月以降のさし芽ではロゼット化し, 全く採花できなかった。採花時期は11~1月で, 冬切りとなった。無加温条件では更におくれるものと思われる。

据えおき株の採花時期は, 1番花か6月上旬~下旬, 2番花が9月下旬~10月下旬で, 全茎採花となった。このことから2番花を秋切りするための1番花の採花限界は6月末ころにあると考えられる。

以上のように5月ざしで秋切りできることが知られたが, 切花形質は相対的に劣る傾向がみられた。

昭和59年の結果について, 5月9日ざしと5月18日ざしでは, 採花時期が9月上, 中旬, 採花茎率80%以上で, 定植後の管理条件の影響はほとんどみられなかった。これに

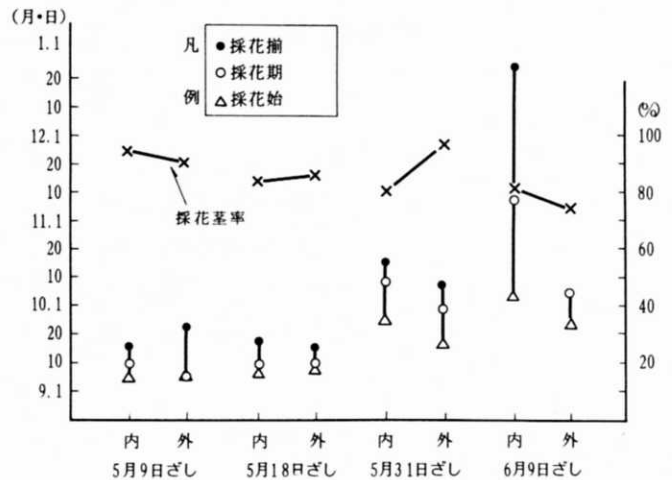


図3 さし芽時期と採花時期・採花茎率

対し, 5月31日ざしの採花時期は戸外管理区で9月中旬~10月上旬, ガラス室管理ではややおくれて9月下旬~10月中旬であった。採花茎率もガラス室管理区でやや低く, 明らかに高温による開花抑制がみられた。また6月9日ざしではガラス室管理区の採花期間が90日間近くも延長し, 一方, 戸外覆下管理区の採花茎率が低下するなど生育全般に不安定であった。

切花長・茎径などは戸外覆下管理区ですぐれていた。ガ

表3 収穫物調査 (昭59)

区名	項目	切花長 (cm)	総節数 (節)	側枝 初生節位 (節)	側枝発生節数(節)				開花側枝 発生節数 (節)	最大 側枝長 (cm)	茎 径 (cm)
					単生	対生	三又	計			
5月9日 ざし	内	52.6	22.3	13.3	7.3	2.8	0.2	10.3	6.4	20.5	0.30
	外	58.6	23.7	13.4	8.7	1.9	0.7	11.3	7.4	24.6	0.39
5月18日 ざし	内	57.6	21.7	10.6	8.7	2.3	0.6	12.1	7.6	24.2	0.31
	外	62.0	22.6	10.6	10.4	2.0	0.7	13.0	7.5	27.4	0.41
5月31日 ざし	内	59.8	23.0	12.2	8.6	3.1	0.1	11.8	6.6	31.0	0.39
	外	62.5	23.4	12.6	9.4	1.8	0.7	11.8	6.8	25.7	0.39
6月9日 ざし	内	63.2	22.5	12.4	8.0	2.6	0.6	11.1	5.8	28.2	0.40
	外	57.2	21.6	11.8	8.0	2.2	0.7	10.8	7.3	31.0	0.43

ラス室管理区では生育が全般に軟弱であり, また一茎(枝)内の開花が不斉一で, 開花様相はやや異常であった。

このようなことから秋切りするためのさし芽時期としては5月中・下旬が安定しているものと考えられる。

4 ま と め

以上のように5月ざしで秋切りできることを明らかにし

た。さし芽適期は5月中, 下旬, その採花時期は9月上旬から10月上旬である。購入苗を用いる場合には6月下旬ころに入手し, 7月上旬ころに摘心すればよいと思われる。

高温時期を経過する作型なので, 高品質生産を期待するためには, できるだけ涼しい条件での栽培管理が不可欠である。